

2020年卒
Vol.02

11月後半時点の就職意識調査

キャリアス就活 2020 学生モニター調査結果 (2018年12月発行)

引き続き売り手市場が予想される新卒採用戦線。2020年卒学生の就職戦線の見方や、就活準備状況は、2019年卒者と比べてどのように変化しているだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、11月後半時点での就職意識および就職活動の準備状況などを尋ねた。前年同時期に実施した2019卒者を対象とした調査結果と比較しながら分析したい。

1. 就職戦線の見方

- 先輩たちより「厳しくなる」57.9%。前年調査に比べ8.3ポイント増加
- 急激な早期化を警戒する学生が目立つ。五輪需要の不服感も懸念

2. 11月後半時点での志望業界

- 志望業界が「明確に決まっている」21.4%、「なんとなく決まっている」51.9%
- 志望業界1位「医薬品・化粧品」、2位「水産・食品」、3位「素材・化学」
- 志望のきっかけ「インターンシップに参加して興味を持った」「業界研究の結果」

3. 企業選びのこだわり度合い

- 「人・社風に強くこだわる」57.6%、「企業規模に強くこだわる」13.0%

4. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

- 「業界トップの企業」19.5%、「大手企業」41.1%。大手狙いの学生がさらに増加

5. 就職活動準備状況

- 11月までの就活準備は「自己分析」70.4%、「業界研究」64.8%
- 就職準備イベントへの参加経験者は87.5%。前年同期より9.1ポイント増加

6. インターンシップの参加状況

- モニター全体の86.2%が参加経験あり。前年同期より6.2ポイント増加
- 応募理由は「企業研究のため」が最多(77.4%)。次いで「業界研究のため」76.0%
- 平均参加社数5.1社のうち、就職したいと思った企業は1.7社

7. 今後のインターンシップ参加予定

- 今後参加したい時期は「2月」83.2%、「1月」79.5%の順。前年より早期の参加意向が強い

8. 就職活動開始状況

- 「自分の中ですでに就職活動は始まっている」85.8%。スタート時期は「3年生の6月」に集中
- 「就活スタート」と思う行為は、「インターンシップ情報を探す・応募する」が最多

調査概要

- 調査対象：2020年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：1,207人（文系男子412人、文系女子333人、理系男子300人、理系女子162人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2018年11月15日～26日
サンプリング：キャリアス就活2020学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

1. 就職戦線の見方

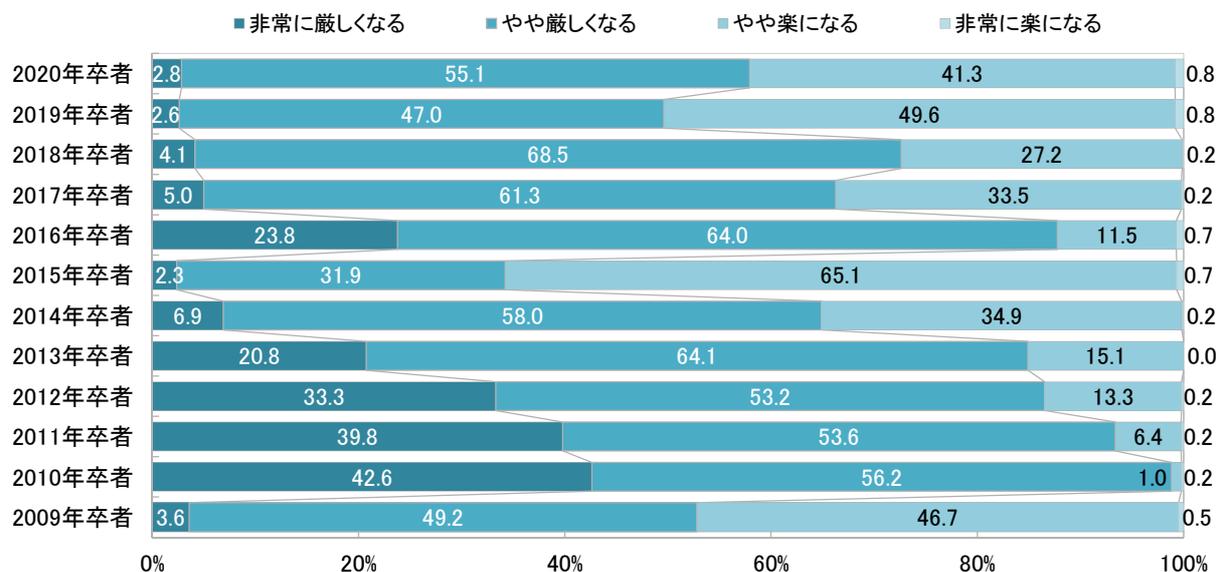
2020 年卒の就活生は、自分たちの就職戦線が 1 学年上の先輩たちに比べてどのようになると見ているのか、その見通しを尋ねた。「非常に厳しくなる」2.8%、「やや厳しくなる」55.1%で、厳しくなると見ている者の合計は 57.9%。前年調査 (49.6%) と比べると、厳しくなるとの見方は 8 ポイント余り増加した。

過去のデータを振り返ると、リーマン・ショック後の採用抑制期は「厳しくなる」が大勢を占めていたが、企業が新規採用に積極的になるにつれその比率は毎年減少。2016 年卒者は大幅な日程変更を巡る不安から、売り手市場にもかかわらず一旦増加したが (計 87.8%)、ここ数年は増減を繰り返している。

今回、厳しいと考える慎重派が増えたが、寄せられたコメントを見ると、経団連の指針がなくなる 2021 年卒以降を見据えて、企業がこれまでと違った動きを試すのではないかと警戒する声が目立つ。早くも一部企業の囲い込みを目にし、仮に早期化が急速に進めば準備が間に合わなくなると、乗り遅れを心配する学生が少なくない。また、大手企業を目指す学生がますます増える中 (5 ページ)、売り手市場でも大手企業は別だと捉える意見も散見された。

一方、楽になると見ている学生には、人手不足による売り手市場の継続を根拠に挙げる声が依然多い。少なくとも東京五輪まで需要が減ることはないとする向きが目立つ。なお、厳しいと考える慎重派では、五輪に向けた人材ニーズはピークを超えたと捉える声が多かった。

<就職戦線の見方>



■「厳しくなる」と見る理由

○2021 年入社から経団連による指針がなくなるが、それに向けて各企業がなんらかのことを試すのではないかと考えている。それにより、先輩の経験談等をそのまま活かすことができないのではないかと。 <理系男子>

○売り手市場と言われているけれど、人気の大手企業にはやはり希望者が殺到すると考えるため。 <理系女子>

○オリンピック需要が終わってしまう。20 卒は、オリンピック開催中は研修期間なので、あまり多くは必要ないと考えるから。 <文系男子>

■「楽になる」と見る理由

○東京オリンピックが終わらないうちは一つ上の代より就活が厳しくなるということは考えていません。逆に、一つ下の代が経団連の方針の煽りを受けて厳しくなるのではないかと考えています。 <理系男子>

○売り手市場と言われており、業界上位の企業においても囲い込みの話などをよく聞くため。 <文系男子>

2. 11 月後半時点の志望業界

志望業界について尋ねたところ、「明確に決まっている」という学生が2割を超え (21.4%)、「なんとなく決まっている」(51.9%) を合わせると、7割を超える (73.3%)。一方で、「決まっていない」という回答が前年より増えているが (24.4%→26.7%)、業界を絞らずに就職活動を進める層が増えている可能性も考えられる。

志望業界のある学生に、具体的に業界を尋ねたところ (40業界から選択)、最も多かったのは「医薬品・医療関連・化粧品」(18.5%)。理系女子でポイントが集中しており (46.3%)、全体順位を押し上げた格好だが、理系男子や文系女子でも10位以内に入るなど、属性問わず志望者が多い。次いで「水産・食品」17.7%、「素材・化学」17.2%と続く。

前年同期調査で1位だった「銀行」は8位に順位を下げた。前年は文系男女ともに1位で、特に文系学生に人気の業界だったが、今回は揃って2位になるなど、銀行を志望する文系学生が減っている様子が表れている。文系男子の1位は「商社 (総合)」で、女子の1位には「マスコミ」が入った。ただ、志望業界は就職活動が進んでいく中で変化していくのが毎年の傾向であるので、今後の推移に注目していきたい。

<志望業界の決定状況>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
明確に決まっている	21.4	20.4	20.1	17.1	25.7	25.3
なんとなく決まっている	51.9	55.2	49.8	48.3	56.0	57.4
決まっていない	26.7	24.4	30.1	34.5	18.3	17.3

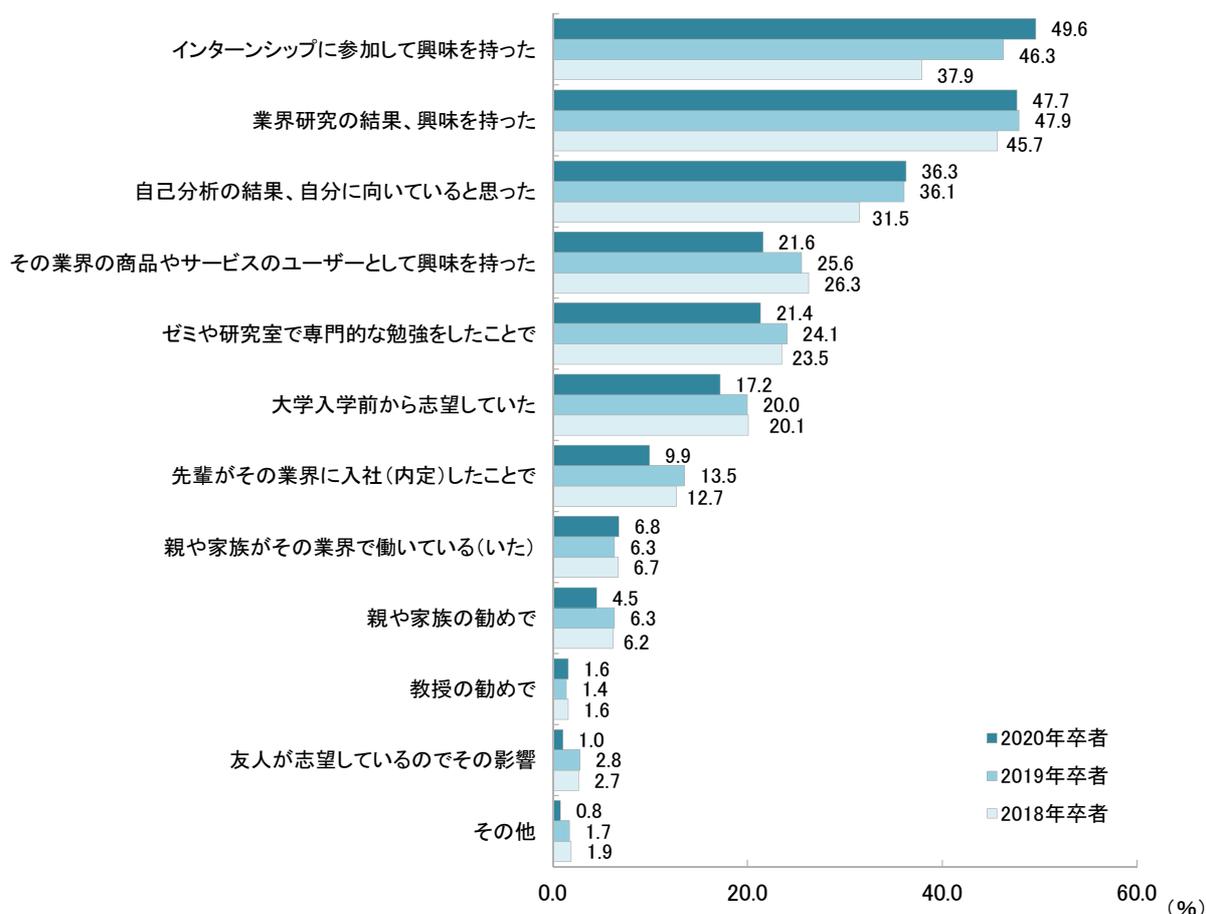
<志望業界(上位 20 業界)>

全 体		文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	医薬品・医療関連・化粧品 ⑥ 18.5	商社 (総合) 25.0	マスコミ 24.8	電子・電機 30.6	医薬品・医療関連・化粧品 46.3
2	水産・食品 ② 17.7	銀行 23.3	銀行 20.2	素材・化学 25.7	水産・食品 37.3
3	素材・化学 ⑨ 17.2	調査・コンサルタント 20.8	水産・食品 17.4	情報・インターネットサービス 23.7	素材・化学 32.8
4	調査・コンサルタント ③ 16.8	情報・インターネットサービス 17.0	調査・コンサルタント 16.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 22.4	建設・住宅・不動産 17.2
5	情報・インターネットサービス ⑤ 16.7	マスコミ 16.7	ホテル・旅行 15.6	自動車・輸送用機器 21.6	官公庁・団体 13.4
6	電子・電機 15.8	官公庁・団体 16.0	商社 (総合) 13.3	医薬品・医療関連・化粧品 21.2	情報・インターネットサービス 12.7
7	商社 (総合) ⑦ 14.6	建設・住宅・不動産 15.6	医薬品・医療関連・化粧品 12.8	機械・プラントエンジニアリング 19.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 12.7
8	銀行 ① 14.5	運輸・倉庫 12.5	運輸・倉庫 11.9	精密機器・医療用機器 18.4	精密機器・医療用機器 12.7
9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ⑩ 14.0	商社 (専門) 12.5	建設・住宅・不動産 11.9	調査・コンサルタント 14.7	調査・コンサルタント 12.7
10	建設・住宅・不動産 13.8	水産・食品 11.8	保険 11.5	水産・食品 14.3	電子・電機 11.9
11	マスコミ ⑧ 13.6	保険 11.5	官公庁・団体 11.0	エネルギー 12.7	印刷・パッケージ 9.7
12	官公庁・団体 ④ 12.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 11.1	情報・インターネットサービス 11.0	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 11.4	エネルギー 8.2
13	自動車・輸送用機器 11.8	素材・化学 11.1	人材紹介・人材派遣 11.0	建設・住宅・不動産 11.4	農業・林業・鉱業 8.2
14	エネルギー 9.9	エネルギー 10.4	教育 9.6	通信関連 11.0	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 7.5
15	運輸・倉庫 9.6	電子・電機 10.1	エンターテインメント 9.2	鉄鋼・非鉄・金属製品 9.8	マスコミ 6.7
16	精密機器・医療用機器 9.6	自動車・輸送用機器 9.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 9.2	官公庁・団体 9.4	商社 (専門) 6.7
17	機械・プラントエンジニアリング 8.5	証券・投信・投資顧問 9.0	電子・電機 9.2	運輸・倉庫 8.6	その他サービス 6.0
18	通信関連 7.7	ホテル・旅行 8.7	エネルギー 7.3	商社 (総合) 8.2	機械・プラントエンジニアリング 6.0
	保険 7.7	教育 8.0	自動車・輸送用機器 6.9	農業・林業・鉱業 6.9	自動車・輸送用機器 6.0
20	ホテル・旅行 7.5	医薬品・医療関連・化粧品 7.6	通信関連 6.9	証券・投信・投資顧問 6.5	商社 (総合) 6.0

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

第 1 志望に選んだ業界について、志望するに至ったきっかけを尋ね、過去 2 年の調査結果と比較してみた。前年、前々年調査で最も多かったのは「業界研究の結果、興味を持った」だったが、今年は「インターンシップに参加して興味を持った」が初めて最多となった。2 年前に比べ 10 ポイント以上増えた (37.9%→49.6%)。インターンシップの参加経験を持つ学生は前年よりさらに増えたが(後述)、インターンシップに参加した業界の中から志望業界を選ぶ(決める)といった動きが強まっていることが推測できる。一方、「業界研究の結果、興味を持った」も 47.7%と僅差で続いており、志望業界を固めるべく、早くから精力的に業界研究に励む姿が透けて見える。

＜第1志望の業界を志望するに至ったきっかけ＞



■業界研究の悩みなど

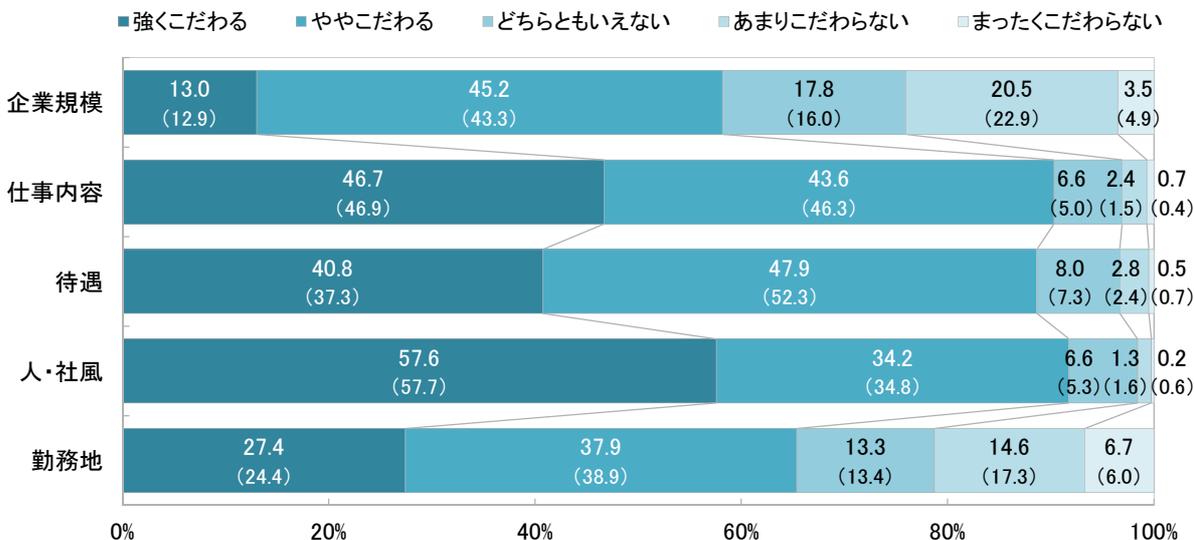
- 業界研究はよく、様々な業界を見てみるのが良いと言われますが、実際どの程度の知識を身につければいいのかわかりません。興味のある業界は深く調べるのですが、興味のない業界を見ようとしても、あまり気が進まず、生半可な知識しかつけられないのが現状です。 <文系男子>
- 志望業界のインターンに参加したら、志望業界ではなくなってしまいました。自分に合った業界や企業に出会える気がなくなってしまいました。 <文系女子>
- 現在は IT 系を志望しているが、別の業界に自身の適性があるか確かめたい。 <理系男子>
- 志望する業界が比較的狭く、他の業界に比べて各種の就職情報サイトやイベントが利用しにくいことが悩みです。 <理系女子>
- まだまだ知らない業界があるまま就活していいのかという不安があります。もっとたくさんの業界や仕事内容を見た上で決めたいです。 <文系女子>

3. 企業選びのこだわり度合い

会社選びの軸として学生がよく挙げる 5 つの項目について、こだわりの度合いを尋ねた。「強くこだわる」が最も多いのは「人・社風」(57.6%)で、「ややこだわる」(34.2%)をあわせると 9 割を超える(計 91.8%)。「仕事内容」「待遇」も 9 割前後がこだわると回答した(それぞれ計 90.3%、計 88.7%)。逆に、こだわり度合いが低いのは「企業規模」で、強くこだわる学生は 1 割程度(13.0%)。ただし、「ややこだわる」(45.2%)をあわせると 6 割に迫る(計 58.2%)。

なお、待遇と勤務地については、「強くこだわる」という学生がそれぞれ前年調査より 3 ポイント以上増加し、こだわりの度合いが強まる傾向が見られる。

<企業選びのこだわり度合い>

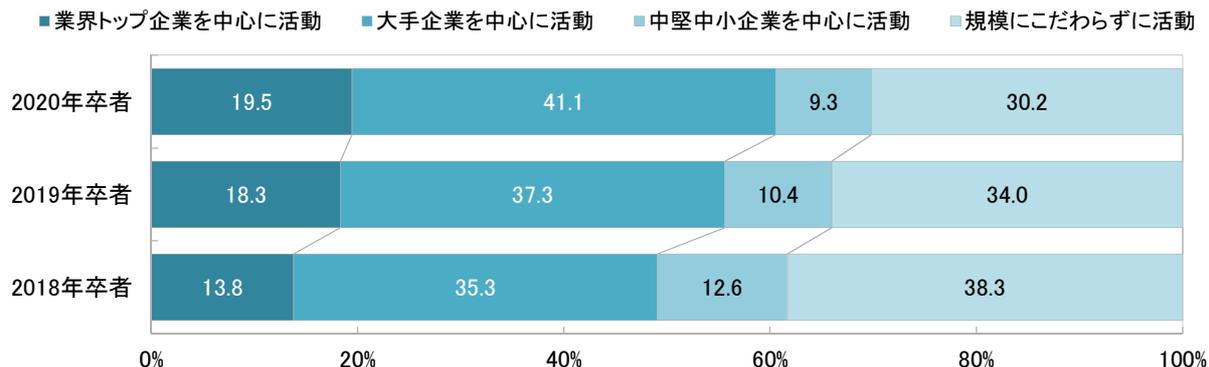


※()内は前年同調査の数値

4. 就職活動の中心とする予定の企業の規模

就職活動の中心とする企業の規模を尋ね、3 カ年の推移を比較した。「業界トップの企業を中心に活動するつもり」19.5%、「大手企業を中心に活動するつもり」41.1%で、いわゆる大手狙いの学生は 6 割を超える(計 60.6%)。大手志向の学生は、2 年前の 2018 年卒者(計 49.1%)に比べ 11.5 ポイント増加した。企業規模に強くこだわる学生は 1 割あまりだったが(上述)、大手企業を活動の中心に据える学生は年々増加している。先輩たちの就職戦線よりも難易度が上がると予想する学生が増えたが(2 ページ)、狭き門の大手企業を目指すからこそ、厳しいと覚悟する学生が増えたのだと見ることもできる。

<活動の中心とする予定の企業規模>



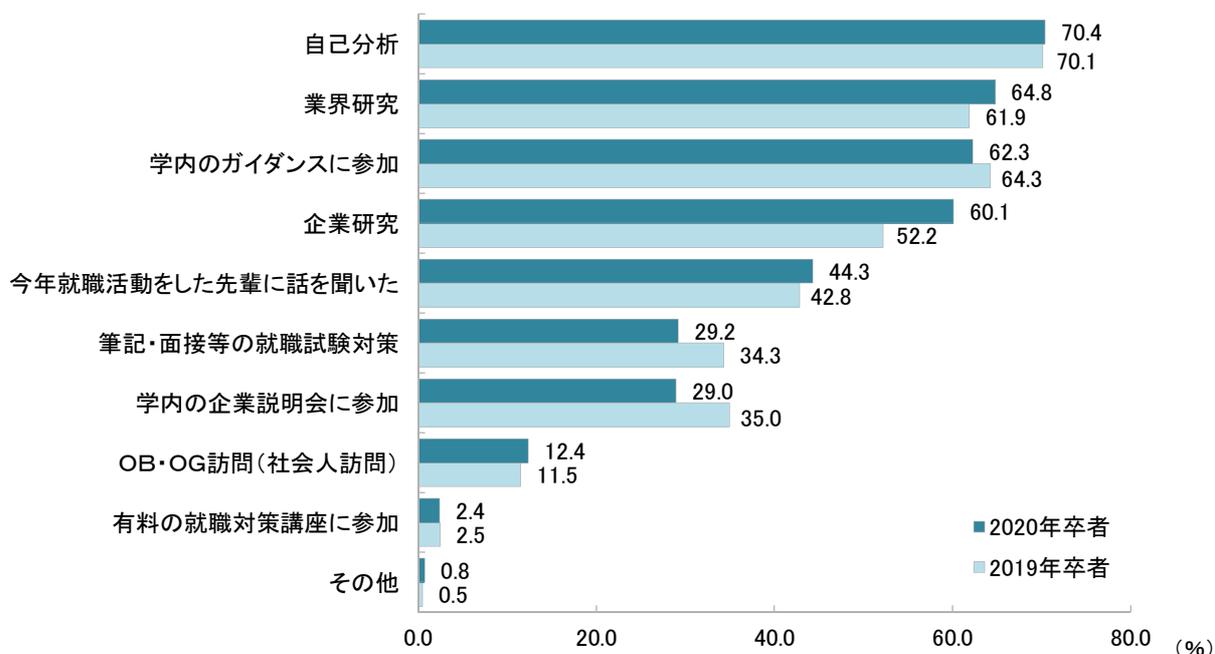
5. 就職活動準備状況

就職活動の準備として行ったことを尋ねたところ、最も多かったのは「自己分析」で、前年に続き7割を超えた(70.4%)。次いで「業界研究」が6割強(64.8%)で続く。前年調査より約3ポイント増加した。4番目の「企業研究」も約8ポイント増加しており、前年より業界研究、企業研究を始める時期が早まっている様子がうかがえる。一方「学内のガイダンスに参加」(62.3%)、「学内企業説明会に参加」(29.0%)は前年より減少しており、学外で広く活動する学生が増加しているようだ。

就職情報会社が主催する就活準備イベント(インターンシップイベント、業界研究イベントなど)への参加状況を見ると、全体の87.5%が「参加経験あり」と回答。前年調査より9.1ポイント増加した。多くの学生が早期から会場に足を運んでおり、一人あたりの平均参加回数も増えている(3.7回→4.1回)。インターンシップ参加企業を探すほか、企業の採用担当者や現場社員の話を聞くことで、業界研究や企業研究に役立てたいと考える学生が積極的に参加しているのだろう。

なお、今後の参加予定回数の平均は2.9回。

<就職活動準備でこれまでにやったこと>



<就活準備イベントへの参加経験>

	全体 (%)	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
参加経験あり	87.5	78.4	89.3	90.1	82.3	87.0
参加経験なし	12.5	21.6	10.7	9.9	17.7	13.0

<就活準備イベントの参加回数>

	全体 (回)	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
これまでの参加回数	4.1	3.7	4.2	4.2	3.9	4.0
今後の参加予定回数	2.9	3.2	3.4	2.9	2.6	2.3

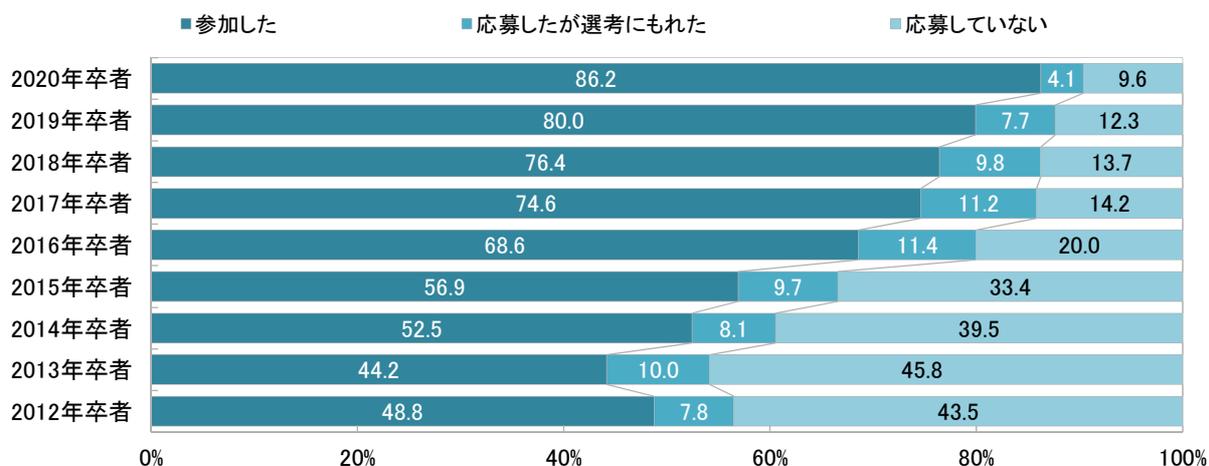
※就職情報会社が主催するものについて調査

6. インターンシップの参加状況

インターンシップの参加状況を尋ねたところ、参加経験がある学生はモニター全体の 86.2% だった。前年同期調査より 6.2 ポイント増加しており、7 年連続で増加傾向が続いている。就職活動前のインターンシップ参加は、学生にすっかり定着したようだ。参加社数を見ると、ショートプログラムへの参加が多く、「1 日以内のプログラム」が平均 4.0 社で、前年より 0.7 社増加した。

さらに、応募理由を複数回答で尋ねたところ、最も多かったのは「企業研究のため」(77.4%)。続く「業界研究のため」(76.0%)、「職業体験のため」(70.2%) までが 7 割を超え、上位 3 項目にポイントが集中。インターンシップを通じて仕事や企業への理解を深めたい学生が多いことが読み取れる。

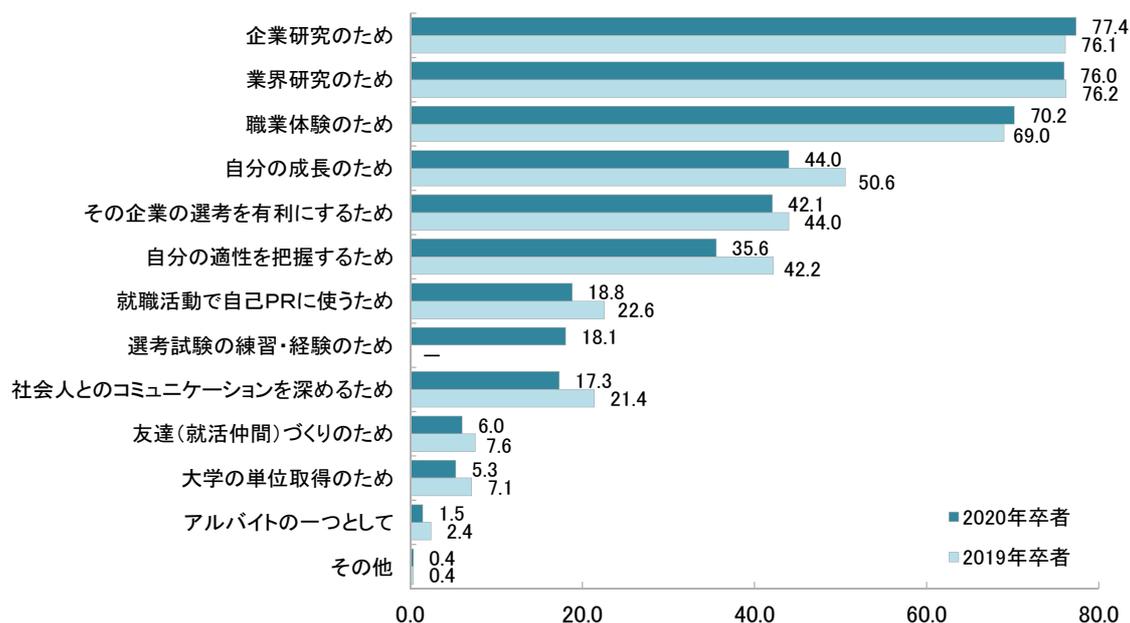
<インターンシップ参加経験>



<インターンシップ参加社数/平均>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1日以内のプログラム	4.0	3.3	4.1	4.3	3.4	4.1
2~4日間のプログラム	1.9	1.6	2.0	1.9	1.6	1.7
5日以上プログラム	1.4	1.4	1.6	1.3	1.3	1.2

<インターンシップに応募した理由>

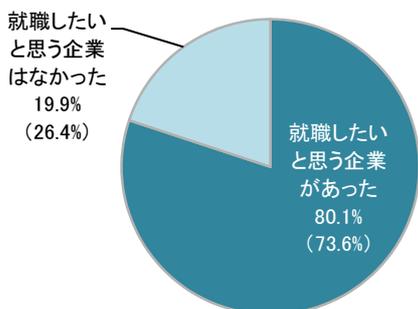


※「選考試験の練習・経験のため」は、前年調査なし

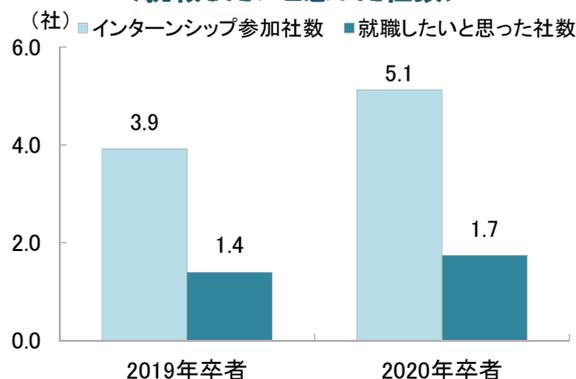
(%)

また、参加した結果、就職したいと思う企業があったかどうか尋ねたところ、「あった」と回答した学生は前年より 6.5 ポイント増加し、約 8 割 (80.1%) に上った。インターンシップ平均参加社数 5.1 社のうち、就職したいと思った企業は 1.7 社。前年と比べると、インターンシップ参加社数の増加に伴い、就職したいと思った社数も増加した (0.3 社増)。

＜インターンシップ参加企業への就職意向＞



＜就職したいと思った社数＞



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
就職したいと思う企業があった	80.1	82.2	75.0	84.2	78.9
就職したいと思う企業はなかった	19.9	17.8	25.0	15.8	21.1

(%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
インターンシップ参加社数	5.1	5.7	5.4	4.3	4.8
就職したいと思った社数	1.7	1.9	1.7	1.6	1.6

(社)

※「インターンシップ参加社数(平均)」は、日数にかかわらず参加経験を持つ人が分母
 ※「就職したいと思った社数(平均)」は、就職したいと思う企業が 0 社と回答した人も含む

■インターンシップに応募した理由

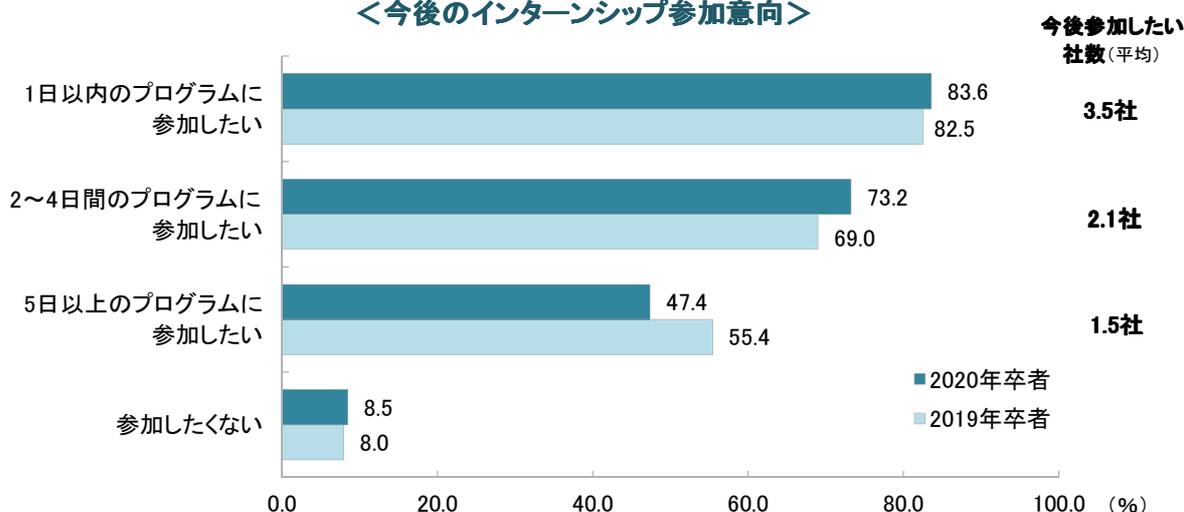
- 具体的に志望業界が決まっていないので、色々な業界を回って自分に合いそうな業界を探している。
＜文系女子＞
- 自分の興味のある分野を絞るために、また適性を見るために、少しでも気になった業界の企業には少なくとも 1 つはインターンシップに参加するようにしました。
＜理系女子＞
- 自己分析や業界分析をしても、実際に体験してみないと自分にあっているかどうか分からないと思ったから。
＜理系女子＞
- BtoB のメーカーは馴染みがなかったので、インターンシップに参加して少しでも仕事内容を知りたかったから。
＜文系男子＞
- 社員の方々と話をすることでインターネットやパンフレットなどからは分からない生の情報を入手することができるから。
＜理系男子＞
- 夏は、様々な業界について知り、自分の志望業界を絞るということと、実際にワークや選考を体験して自分自身を成長させるという 2 つの目的で活動していた。秋頃からは志望業界・企業を中心に応募して、企業理解やマッチング、選考対策のつもりで参加している。
＜文系男子＞
- 行きたい企業が具体的に決まっていたため、その会社で働いている人の雰囲気や業務に対する姿勢をより詳しく知りたいと思いインターンに参加しました。
＜理系男子＞
- 本選考に有利になると噂の企業を中心に応募した。
＜文系男子＞
- 会社説明会等だけでは、志望動機を考えるにあたって、十分な知識を得られないと思うから。
＜文系女子＞

7. 今後のインターンシップ参加予定

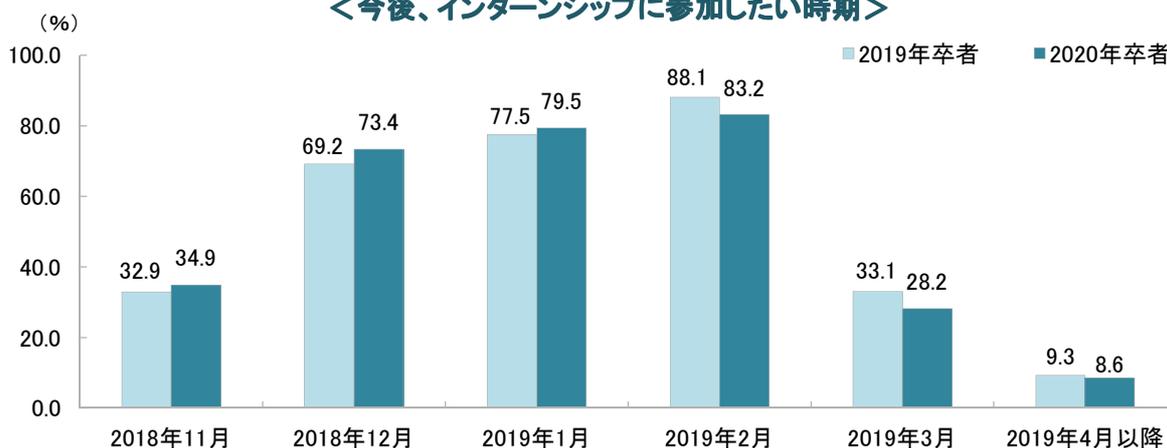
今後のインターンシップについて、「参加したくない」と回答した学生は8.5%にとどまり、9割強が参加意向を示した(91.5%)。開催日数別で見ると、「1日以内のプログラム」への参加を希望する学生は、8割を超える(83.6%)。「2~4日間のプログラム」も7割強(73.2%)と、開催期間が短いものほど参加意向が強い傾向。「5日以上プログラム」は、前年より減少したものの、約半数(47.4%)が依然参加を希望している。

具体的に参加したい時期を尋ねると、最も多いのは「2月」で8割超(83.2%)。3月の採用広報開始直前の企業研究として参加したいと考えている学生が多いのだろう。ただし、「2月」は前年より約5ポイント減少。一方、1月以前は、軒並み前年を上回っており、早い時期の参加が増える見込みだ。

＜今後のインターンシップ参加意向＞



＜今後、インターンシップに参加したい時期＞



■今後のインターンシップについて

- 多くのインターンシップに参加し、自分の行きたい企業を見つけていきたいです。 <理系女子>
- 選考があるインターンシップを避けて応募していましたが、段々と慣れてきたので、最近では選考ありのインターンにも応募し始めました。 <文系女子>
- 授業がある時期に設定されてしまうと、行きたくとも参加できないのでそこは配慮してほしい。 <文系男子>
- 夏や冬のインターンは、選考に関係ないと記載する企業が多いが、実際どうなのかが知りたい。 <文系女子>

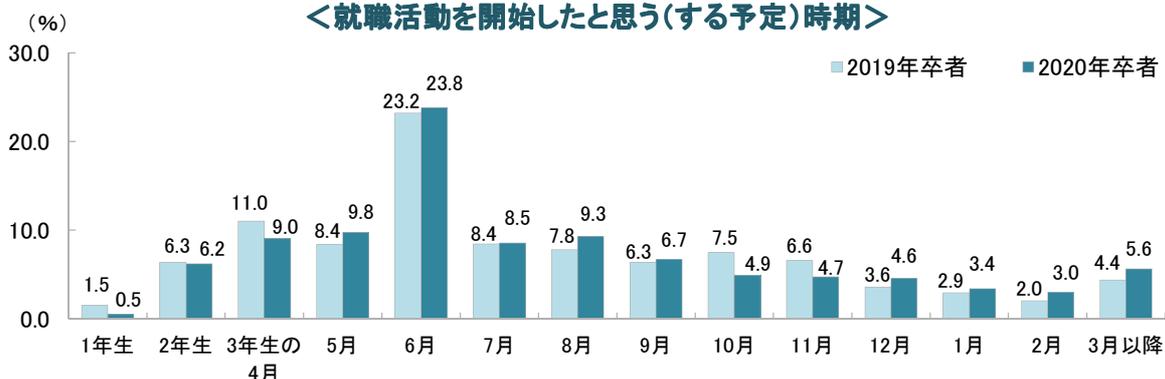
8. 就職活動開始状況

今回アンケートに回答した学生は、自身がすでに就職活動を開始していると感じているのだろうか。自身の開始状況を尋ねたところ、前年同期調査とほぼ同率の 85.8%が「すでに始まっている」と回答した。開始時期は今年も 6 月が最も多く (23.8%)、6 月までの合計は約半数 (計 49.3%)。さらに、何をすることで就職活動が始まったと考えているのか尋ねると、最も多かったのは「インターンシップ情報を探す・応募する」(21.1%)。夏季インターンシップに向けて、6 月に企業探しを始めたり、応募のための自己分析を始めたりしたことを「就活スタート」と捉える学生が依然主流であることがわかる。

<就職活動の開始状況に対する考え>



<就職活動を開始したと思う(する予定)時期>



※自分の中ですでに始まっていると回答した人は「開始したと思う時期」、まだ始まっていないと回答した人は「開始予定時期」

<「就活スタート」だと思う行為>

